エコレザー対談

前田 大伸（だいしん）氏
（株式会社前實（まえみ） 代表取締役）

稲次 俊敬氏
（NPO法人日本皮革技術協会 副理事長）

和の伝統を生かした「姫革友禅（ひめかわゆうぜん）」、オンリーワンの革づくりでさらに前進

供給先の不振を機に製品メーカー直販にシフト

稲次　今月号は国内最大の皮革産地である姫路市のタンナー、株式会社前實の前田大伸社長にご登場いただきました。「姫革友禅」というオリジナルブランドを持ち、オンリーワンの革づくりに取り組んでいます。初めに社歴からお話し下さい。

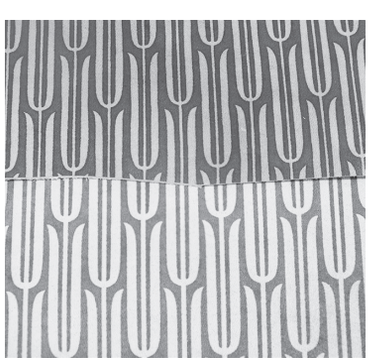
前田　先代の前田實生（まえだ・みのる）が会社を立ち上げたのは1976年で、今年で43年目になります。2代目の私が会社を譲り受けたのが10年前の2008年です。株式会社にしたのは2年前の2017年5月でした。ちょうどその頃に3代目（息子の前田悠貴氏）が会社に入るのを機に法人化しました。

稲次　革は非常に奥行の深い素材であり、タンナーの仕事は魅力があるでしょう。しかし、最近は市場環境が本当に厳しいですね。

前田　厳しいです。私は子供のころから家業を手伝っており、いずれは家業を継ぐものと思っていました。学校を卒業して、皮革関連の薬品会社に2年間ほど勤めた後に戻ってきました。当時の景気はまだバブルの名残もあり、革の供給先も探せば、かなりありました。

　そのころは革問屋売りがメインで、鞣した革を問屋さんに納めれば、製品メーカーに売ってくれました。ところが、ある問屋さんが突

前川社長（右）と稲次副理事長。本社工場前で


革に京友禅の柄を染めつけた「姫革友禅」

日本エコレザー、6つの条件
①天然皮革である
②発がん性染料を使用していない
③有害化学物質の検査をしている
（ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料）
④臭気が基準値以下
⑤適切に管理された工場で作られた革
（排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造）
⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上

http://japan-ecoleather.jp

前田氏

稲次氏

然、民事再生手続きを申請したときに、このまま問屋売りを続けていたら、先は無いなと考えを変えました。

革問屋さんは既にそのころから見込み在庫を持たなくなっていました。そこで、当社はメーカーへの直販も始めたのです。最初は苦戦したものの、徐々に取引が増え始めました。ただし、問屋さんとは違って、メーカー直販は受注枚数が限られており、売上げ計画に寄与するほどではなかったですね

見本市でのPRなどで新たな販路を開拓

稲次　最近は、海外の見本市に出展したり、いろんな企業とコラボレーションをするなど、流通スタイルを変えてきていますね。

前田　販路開拓で悩んでいるときに、地元商工会の方から経営アドバイザーを紹介されました。その方に革をお見せしたところ、友禅の革に目が止まり、「なぜこの革をもっと売り出さないのか」と言われました。

革をつくるだけが取り柄の自分たちにとって、誰に、どう売るのか、プロデュースするのかがわかりませんでした。そこで姫路市の〝ものづくり事業〟に「姫革友禅」でエントリーしてみたところ運よく受賞し、多くの方に知られるようになりました。

その後、経済産業省が選出している〝がんばる中小企業・小規模事業者300社〟に選ばれたほか、イタリアのバッグ見本市ミペルに鞄を作って出品したところ、〝パノラマ〟賞にノミネートされました。

こうした活動が、ジャパン・ブランドを立ち上げる事業を推進する経産省の目に止まり、支援を受けることになりました。

また、京都の伝統工芸を手掛ける方たちと知り合う機会にもなりました。

「姫皮友禅」でつくったクラッチバッグ

稲次　姫路の「姫革」と京都の「京友禅」の技が融合した「姫革友禅」は、30年以上前に先代の社長さんが開発されたものと聞いていますが…。

前田　着物の友禅染めはシルクスクリーンで色を重ねていきますが、革で安定した色を出すことが難しく、弟と一緒に改良に取り組んできました。今日の姫革友禅が完成したのは、90年代後半でした。

伝統工芸とのコラボ、幻の「黄金の革」を再現

稲次　「姫革友禅」が「京都レザープロジェクト」に取り上げられ、京都・二条城での発表会につながったと思いますが、京都レザーとのコラボレーションする経緯についてお聞かせください。

前田　京都レザーの田尻敏寛代表は全国各地から革を仕入れ、革に京友禅や西陣帯箔を施すことを試みたようですが思うような色に染まる革が無く、半分さじを投げ

前田氏

原皮から革を一貫生産をする

かけていたようでした。私は当社の革だったら、きちんと染まるという自信があったので、ベースとなるクロム鞣しの白い半裁革を渡しました。

その結果、思い通りの色に容易に染めることができたことから、運良くマッチングが始まったのです。

稲次　企業秘密の部分もあるかと思いますが、姫革友禅は他の革とどこが違うのでしょうか。

前田　着物の友禅染めでは色を固着するために、釜の中に入れて蒸します。しかし、革はコラーゲンなので熱に弱く、耐熱性を持たせる必要がありました。革はクロムで鞣していますが、クロムを使い過ぎたら鮮明な色が出せません。逆に、少なければ焼けてしまいます。微妙なさじ加減を必要とするのです。

今、インクジェットがはやっていますね。しかし、これは細かく見ていくと、インクの粒が目立ち、色も自然ではありません。それに比べて、姫革友禅なら革の中にまで染料が入り込み、色も鮮明で、洗った後の発色も自然です。

稲次　京都レザーさんが使っているのは前實さんの革だけですか。

前田　当社の革だけです。

姫革友禅は、当社が目指す〝オンリーワン〟になっているのです。

京都レザーがつくる京友禅には手捺染のほかに、墨流しがあります。これらに使う革は別物です。革墨流し用は、加脂剤の入った一般的な革では墨が付きません。

また、西陣帯箔では金箔銀箔を貼る加工もありますが、これまでは箔がはがれて落ちてきてしまったものを、しっかりと張り付くようにしました。この開発には2年ほどかかりました。

稲次　大変な努力ですね。コラボレーションではほかにも、兵庫・豊岡のバッグデザイナー、由利佳一郎さんとの取り組みがありますね。

前田　出会いは10年ほど前の東京レザーフェアです。あるブースに飾ってあったダレスバッグに驚き、ご紹介いただきました。彼のデザインによる「姫革友禅」のシリーズは好評を得ています。

由利さんとのコラボによる〝オンリーワン〟のバッグは、イタリアで500年ほど前に作られていたまぼろしの黄金の革「クオイドーロ」を再現して製作したものです。

とおり一遍の革では面白くない、何か変わったものがないか、と話し合って取り組みました。光り方が足りない、高級感がない、など試行錯誤しながら再現しました。今は財布メーカーの製品で採用されることが多いのですが、今後はインバウンド用にも適しているのではと考えています。クオイドーロの魅力を日本人以上に感じてもらえるかもしれません。

京都レザープロジェクトでは、嵯峨野にショップを立ち上げる計画があります。立地的にもインバウンド需要が期待できそうです。

インバウンド向けにも安全・安心の日本エコレザー

稲次　インバウンド需要を狙って京都レザーを打ち出すのであれば、日本エコレザーの安全・安心という付加価値があると外国人の関心は高くなるでしょうね。

前田　それは、興味を引きそうで

染めやすいよう白い革を下地にする

すね。このエコレザー座談会シリーズの中で、イケテイの池田社長さんが言っておられたように、「エコレザーにしたから特別感があるというのではなく、エコレザーが当たり前のよう使われる」という考え方になっていくといいでしょうね。

稲次　前實さんの革なら、ほとんど基準に適合するかとは思うのですが、一度、検査してみたらどうですか。

前田　実は以前、この制度が始まったころに、日本エコレザー基準の認定を14件取得しています。その時は残念ながら商売のプラスにはつながりませんでした。

ＥＵとのＥＰＡがいよいよスタートして、ヨーロッパの安全基準をクリアした革が容易に日本に入ってくるでしょう。日本のタンナーは差別化するためには、もう一段上を目指さないと生き残れないと思います。差別化のために、どんどんこの制度をＰＲしていただけないでしょうか。

稲次　関連団体と歩調を合わせて、しっかりと取り組んでいかないといけませんね。

姫革友禅を使った「スコッチグレイン」